

このマークをご存知ですか？



街角の信号などで見かけるこのマーク、皆さんは何のマークかご存知ですか？

これは、1984年10月に開催された世界盲人連合の設立総会で制定された「盲人のための国際シンボルマーク」です。

このマークは、視覚障害者の安全やバリアフリーを考慮した建物・設備・機器などにつけられている世界共通のマークで、青地に白で視覚障害者が右手に白杖を持って歩く姿をデザイン化しており、信号機や音声案内装置、国際点字郵便物、書籍・印刷物などに、設置・添付されています。

マークを見かけた時は、視覚障害者へのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

また、災害発生時、このシンボルマークのついた首掛けプレートやベスト、リュックを身につけ行動する視覚障害者もいます。ご理解の上、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

《裏面もご覧ください。》



マーク付き首掛けプレート



マーク付きベスト



マーク付き防災リュック

社会福祉法人 富山県視覚障害者協会

〒930-0077 富山市磯部町3丁目8-8

TEL 076-425-6761 (代)

目の不自由な私たちにこんなサポートをお願いします。

★声をかけることから始まります

ただ挨拶されただけでは、誰に向けられた言葉かわからない事があります。名前か、名前がわからないときは、「〇〇です、こんにちは」と声をかけながら軽く触れ、誰に声をかけているかわかるようにします。そして、困っていることなどを聞き、サポートをお願いします。

★移動時のガイド

- まず、あなたが前に立ち、目の不自由な人に、肘の少し上を軽く握ってもらうか、肩につかまってもらってスタートです。常に二人分の歩く幅を意識し、速度は、目の不自由な人に合わせます。
- 段差や階段では、直前でいったん止まって「下りの段差です」「上りの階段です」などと知らせてください。また、下り終わりは一旦停止して知らせます。
- 二人が並んで歩けない狭いところを通るときは、ガイドのあなたは、腕を後ろに回し、目の不自由な人に真後ろに入ってもらい、一人分の幅を確保しながら気をつけてゆっくり歩きます。

★こんな説明がわかりやすい

- 方向や位置を説明するときは、目の不自由な人から見て「前」「後ろ」「手前」「奥」「左」「右」「〇〇メートル」「〇〇歩ぐらい」など、具体的に伝えるようにします。(決して自分から見た方向ではないこと。)
- 食卓などで複数の配置や微妙な方向を伝える時は、時計の文字盤に置き換えての説明が便利です。目の不自由な人の手前中心（例えばお臍の部）を6時の位置とし、「3時の方向に〇〇があります」等と説明します。また、皿の盛りつけ位置の説明にも有効です。